

2017

4-5月

はしかけニューズレター

2017年度 第1号 通巻134号

2017年(平成29年)4月1日発行



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 妹尾・大塚・下松・大久保)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.lbn.go.jp>

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. 「はしかフェ」のご案内

3. はしかけグループの活動報告と活動予定

- ①うおの会 ②淡海スケッチの会 ③近江はたおり探検隊 ④大津の岩石調査隊 ⑤温故写新
- ⑥くらしをつづる会 ⑦古琵琶湖発掘調査隊 ⑧湖(こ)をつなぐ会 ⑨ザ! ディスカバはしかけ
- ⑩里山の会 ⑪植物観察の会 ⑫たんさいぼうの会 ⑬田んぼの生き物調査グループ
- ⑭タンポポ調査はしかけ ⑮琵琶湖の小さな生き物を観察する会 ⑯びわたん
- ⑰ほねほねくらぶ ⑱緑のくすり箱 ⑲森人 ⑳ちっちゃなこどもと自然であそぼう
- ㉑近江 巡礼の歴史勉強会 ㉒虫架け

生活実験工房からのお知らせ

4. 新規グループ誕生のお知らせ

5. その他の事項

会員数・・・302人

グループ数 22 グループ

(2017年4月1日現在)

1. 事務局からのお知らせ

(1) 更新手続きについて

更新手続きがまだの方は、至急、手続きをお願いします。更新受付票の提出 (FAX、メール添付など) と合わせて、ボランティア活動保険料 510 円の納入をお願いします。ただし、はしかけ以外の活動団体ですすでにボランティア保険に加入されている方は、不要です。

納入方法を、郵便振替口座への振替あるいは振込に限らせていただきます。郵便振替口座 (00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度) 宛に、510 円の振り込み (手数料別) をお願いします。

4月1日以降は、保険料を毎月の月末とし、翌月初めに一括で加入手続きをさせていただきます。そのため保険証と名札をお送りするまでに、1ヶ月あまりのお時間を頂くことがありますことをご了承ください。

なお、18歳未満単独での登録には、保護者の同意が必要です。更新受付票の裏面に必要事項をご記入ください。

(2) 2017年度 第1回はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第1回を2017年5月14日(日)に開催します。各グループの活動紹介をお願いします(約2分間活動紹介と、終了後の質問に対する回答)。

場所: 琵琶湖博物館セミナー室 受付: 13:15～ 開講: 13:30～

(妹尾裕介)

2. 「はしかフェ」のご案内



第2回目は5/14(日)
「広がる交流活動の可能性を考える」

ぜひご参加ください!!

現在、琵琶湖博物館では第2期リニューアルを進めています。第2期の目標は、「交流空間」のリニューアル。琵琶湖と森を感じる屋外展示「樹冠トレイル」、大人も楽しむ知的空間「おとなのディスカバリー」、小グループ向け体験展示空間「わくわく体験スペース」など新たな展示が誕生します。そこで、新展示によって広がる交流空間でのあらたな交流活動を一緒に考え、一緒につくる場「はしかフェ」をオープンしています。「はしかフェ」は、はしかけ会員であれば誰でも自由に参加でき、様々な意見を出し合って、一緒に新しいことにチャレンジしていくための時間です。この機会を使って、普段、会わない違うグループのはしかけの皆さん同士のあいだにも交流が生まれればうれしく思います。

第二回目は、「おとなのディスカバリー」。あたらしくできる大人も楽しむ新展示について詳しく説明します。そのうえで、交流活動の中心にいる、はしかけの皆さんが「おとなのディスカバリー」でこれからどうすることができそうか一緒に考えていきたいと思えます。各グループで運営を担当している人、やりたいことを、どうやって進めるか悩んでいる人、新会員でとりあえず話が聴きたい人、いろんな立場のひとがあつまって話せる機会になれば幸いです。カフェでくつろぐような雰囲気の中話をするので、ぜひ気軽な気持ちでお越しください。

こんなはしかけ会員のみなさんにおすすめ

- ・もっと活動、発信の場が欲しいグループ
- ・はしかけ登録したけれど、具体的に何をしようか悩んでいる方
- ・新しいグループを作りたい方。
- ・びわ博の交流活動に要望のある方
- ・びわ博でのいろいろなイベントと一緒にやってみたい方
- ・他のはしかけさんや学芸員と交流したいと考えている方

対象：2017年度はしかけ登録者(更新手続きをお忘れなく!)

日時：5月14日(日)15:30~17:00 (はしかけ登録講座の日です)

場所：生活実験工房

内容：おとなのディスカバリーの概要説明、博物館でしたい交流についての話し合い、活動についての悩み事+雑談・・・

参加方法：当日参加OK(ご参加がお決まりの方は事前に下記まで氏名、連絡先をご連絡ください)

担当：はしかけ事務局 妹尾

電子メール:hashi-adm@lbm.go.jp 電話:077-568-4811

【活動予定】

①5月14日(登録講座) ②7月上旬 ③10月15日(登録講座) ④12月上旬 ⑤3月11日(登録講座)

(妹尾裕介)

3. はしかけグループの活動報告と活動予定



① うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 30名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbm.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■2月19日(日)午前 運営会議 琵琶湖博物館会議室 参加者:7名

午後の勉強会の進行確認、次年度活動計画などについて話し合いました。

■2月19日(日)午後 勉強会 琵琶湖博物館会議室 参加者:23名(講師含む)

1. うおの会データの活用事例報告(講師:琵琶湖環境科学センター 酒井陽一郎氏)

アユ等の水産重要魚種でない、タナゴ類などの雑魚の大規模なデータは他に例が無いため大変貴重なデータで、生物多様性に関する研究を進めているとのことでした。例えば河川改修の前後で魚の数や種数が減少した場合、イメージではなく実際に証明するものとして、うおの会のデータを活用できるということで、全体にうおの会の活動の意欲につながる話でした。

2. うおの会調査用紙マスター講座(講師:うおの会副会長 高田昌彦氏)

参加者が実際に調査用紙に記入する形で、調査用紙の書き方説明がありました。写真や動画を使った楽しい説明で、各項目の意味や、たも網を使った水深や流速の測り方を知ることが出来ました。自己流の解釈で書いていた部分も多くあり、今後はより正しく書けるものと思います。個人による調査の数が増えることも期待されます。

3. 恒例となっている、年度末のまとめの会を行いました。今年度の調査結果を確認し、魚種シールと地点を示すシールを白地図上に貼り付けました。それぞれの魚種の形態を確認したり、調査時のことを振り返りながら、和気あいあいと魚の絵をハサミで切り抜き楽しい時間を過ごしました。(報告:村山晃彦)

【活動予定】

■3月26日(日)総会 場所:琵琶湖博物館

■4月16日(日)第125回定例調査

【連絡事項など】

■うおの会では、正確な会員数把握と連絡のために、はしかけ登録とは別に、年度ごとに「会員登録票」を提出頂いています。

■登録票はうおの会のWEBサイトからダウンロードでき、メールでの提出も可能です。忘れずにご提出下さい。もちろん、手渡しも可能です。



② 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ)9名】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原徹, 榎永一宏

【活動報告】

■1月22日(日) 琵琶湖博物館内で各自スケッチ 活動会員数:3名

■2月26日(日) 植物や魚の写生と博物館での吟行 活動会員数:6名

【活動予定】

■4月23日(日) 里山にてスケッチ(上駒月)

JR 守山駅 琵琶湖側ロータリー集合 集合時間 午前10時30分(午後3時解散予定) ※雨天中止

■5月28日(日) 麦畑のスケッチ(大中)

JR 守山駅 琵琶湖側ロータリー集合 集合時間 午前10時30分(午後3時解散予定)

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



③ 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: oumihataori@lbm.go.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■1月25日(水) 参加者:6名

工房で栽培したコンニャクを使って、コンニャク作りをお手伝いしました。今回はコンニャクイモが3kgあったので、計12kgのコンニャクができました。終わってから、各自の作業をしました。

■2月4日(土) 参加者:4名

博物館のリニューアルに合わせて縄文原体作りに協力することになりました。縄文原体とは縄文土器に模様をつけた縄のことをいいます。現在の研究では撚り方だけで28種類、アレンジを加えると100種類以上の作り方がわかっています。とりあえず、今回はアサ、カラムシ、フジなどを使って基本の撚り方で試作しました。カラムシで作ったものが一番きれいになりました。

■2月22日(土) 参加者:7名

前回の続きの作業。織物用には単糸を使用しますが、縄文原体には双糸が基本になるので、双糸が大量に必要になります。基本の双糸の様々なタイプを作りました。

■3月8日(水) 参加者:5名

製作の見通しができたので、考古学担当の妹尾さんから縄文原体の製作についてレクチャーを受けました。米原市で作られた麻が一番イメージに近いので、それで製作することにしました。



縄文原体作り

【活動予定】

■織姫の会 3月25日(土)、4月12日(水)、29日(土)、5月10日(水)、27日(土)

(辻川智代)



④ 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: ganseki@lbm.go.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■1月20日(金)10:30-15:15 参加者:8名 琵琶湖博物館 小雪・晴れ・俄雨 天候不順

早くなった日没時間、降雪などの影響を考慮し、博物館内で勉強会を実施した。

午前の部は、隊員の報告と今後の長期予定の立案、午後の部は顧問の中野さんの博物館の研究セミナー「長石微細組織の謎」について聴講した。

1. 隊員の報告

- A. 故郷の益田市の石の報告であった。石を持参して頂き、色んな写真をプロジェクター、また紙の資料で説明頂き、博物館の専門家に鑑定をしてもらった。持参した本人の思いとは異なる判定もでた。石は産地や風化の状態が大きく外見が異なる。岩石調査隊の皆さんも随分と岩石の知識は増えたが微妙な点で専門家の目と異なる。専門家の目との相違を如何に克服かすかが今後のポイントと感じた。
- B. 益田市は歌人の柿本人麻呂の生誕地とのことで足形の石もあるとのこと。
- C. 「マダニに注意」すべしとのお話もあった。他の方からもマダニの被害の話が報告された。痒みや急な吹き出物などが出たら要注意。診察を受けるべしとのこと。吹き出物と思ったものはマダニにそのものであったとの事。数日付着して落下し動き出したとの事。

2. 中野さんの報告

博物館の研究セミナー「長石微細組織の謎」について聴講した。ご研究テーマの一つであった顕微鏡や電子顕微鏡で観察できるサイズの模様=微細組織を有する長石について述べられた。約 40 前に隠岐島後のアルカリ火山岩中のアルカリ長石に累帯構造とパーサイト組織を見出したことが原点であった。その間の幾つもの発見と、未解明であるさざ波組織を含め、アルカリ長石の微細組織である“イカ組織”、“蝶組織”、“さざ波組織”について述べられた。また、こうした微細組織の生成にも関係するとも思われる冷却過程についてもお話があった。

その中で、長石は水分と温度の作用により、色んなパターンを示すと報告があった。先生は資料の最後の方でラルピカイト長石とさざ波組織との関係を述べています。岩石の自己組織化の先駆的な研究とも思われた。自己組織化の研究はいろんな分野で最近注目を浴びている。他の分野との比較研究も面白いとも感じた。

■2月の活動

グループとしての活動は行わなかったが、2月18日(土)に行われた地学研究発表会にて隊員(梅澤)による発表があったことから、参加を推奨した。

■3月11日(土)8:00-17:30 参加者:13名 岐阜県・本巣市・根尾谷水鳥周辺

岐阜県・本巣市の根尾谷地震断層観察館の見学と周辺の露頭、河原での岩石の調査を実施した。観察館では現地の語り部の人に説明して頂いた。日本最大の内陸地震における大地の変動を動きのあるミニチュア模型により、また地震の実態を上手く説明して頂き、さらに大規模な屋内の露頭の見学等で、現実の断層の動きの多様さの理解を進めた。また、今回は地元を愛する現地の皆様の色々のご配慮で、暖かい場所での昼飯、根尾の成因、代表的な石である菊花石とシカマイヤ化石のお話も聞いた。そのあと根尾川の河原2か所の調査、濃尾地震の露頭と思われる崖の遠望、活断層の遠望をし、帰り道に根尾谷名石園に立ち寄り、帰途についた。

調査におけるポイントは、「巨大な地震を発生させる断層の動きは多様であることを認識すること。そのために地震断層観察館で勉強し、露頭などを調査し実感すること。河原のいろんな石を調査すること」である。

課題はやや多すぎ消化不良の点もあったかもしれないが、次に繋がるものがあると思いたい。

また、見学日が3.11であったのでTVの撮影があるためか、前回に来た時より断層露頭の照明が明るく、縦ずれ面周辺の石の配列や全体の岩などもなどもわかった。

【活動予定】

■4月8日(土) 大津市・吾妻川周辺の桜鑑賞と露頭の調査

詳細、後日連絡します。



⑤ 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: onkosyasin@lbm.go.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■2月12日(日) 9:30~12:00 参加者:6名 博物館会議室

これまで撮影してきた写真について、博物館で活用できるように写真の整理作業を行いました。

テーマ別→撮影者別としたフォルダとファイル名を用意し、依頼があれば必要な写真がすぐ出てくるようにできる整理のやり方を議論し、フォルダの整理を行いました。

■3月12日(日) 9:30~12:00 参加者:12名 博物館会議室

今年度のふりかえりと、来年度のテーマ、活動内容を決めました。

来年度は「いま、残しておきたい滋賀の風景」をテーマとし、滋賀県内の町並みの風景、そして気が付けば無くなってしまいうような風景(びわこタワーのイーゴス、国道1号線の草津川トンネルなど)を記録し、将来に同場所で撮影をするための起点とすることにしました。

また、大橋コレクションなどと比較できる現在の姿を記録に残していくことも継続します。

【活動予定】

■4月9日(土) 9:30~15:00 おでかけ撮影会~草津駅前編~ 集合:JR草津駅改札口 9:30 少雨決行

交通費、昼食など別途必要、おやつの上限なし

草津駅前の町並みや草津川沿いの風景を撮影します。
参加される方は、必ず金尾学芸員（kanao@lbm.go.jp）までご連絡ください。

■5月27日(土)9:00～16:00 おでかけ撮影会～マキノ・今津の山間部編～ 集合:博物館 9:00 雨天中止

交通費、昼食など別途必要、おやつの上限なし
マキノ町在原、箱館山周辺など、高島の山間部の初夏の風景を撮影する
参加される方は、必ず金尾学芸員（kanao@lbm.go.jp）までご連絡ください。

温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行います。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



⑥ くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香

【活動報告】

■2月18日

1月に続いて、守山市にお住まいの乗田さんにお話を伺いました。
乗田さんの子どもの頃は、漁や田んぼに行くのに舟で行ったそうです。
小さな子どもは舟の舳先に置いたカゴの中に入れて連れて行きました。
子どもが動いて舟から落ちてしまう事故が続き、なんとかしなくてはとお寺の住職が幼稚園をつくり、子ども達を預かるようになりました。
乗田さんはそのお寺の幼稚園に通ったそうです。
子ども達を事故から守るために地域が努力されたのだと心が温かくなりました。

【活動予定】

次回の活動予定は、4月15日の予定です。

(中尾京子)



⑦ 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス: hakkutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 高橋啓一

【活動報告】

■2月18日(土) 地学研究発表会に参加 参加者:6名 滋賀大学大津サテライトプラザ

毎年恒例の地学研究発表会に参加しました。「古琵琶湖発掘調査隊」では1年の総まとめとして位置付け、それぞれの研究テーマを発表しています。

今年は2名が発表し、連続発表記録を3回に伸ばしています。

人の前で発表するのは不慣れで焦ってしまうものですが、多賀四手での第一次～第四次発掘までの植物化石を発表されたKさんは落ち着かれて堂々としておられました。普段のコーラスの成果がでたようです。

病気で療養中のYさんも奥様と来て下さいました。早く良くなられ一緒に勉強しましょうね。堅い握手で約束しました。

「古琵琶湖発掘調査隊」も発足4年を経過します。まったくの素人集団でしたが今や、個別に地層や動植物化石、足跡化石を専門に勉強される方が増えてきました。今後の成長に大いに期待です。

小学生から年配者まで老若男女の集団です。古琵琶湖に興味のある方の参加をお待ちしています。



何を質問されるやら・・・ドキドキの発表風景



Kさんは威風堂々の発表 女性は強い!

■3月26日(日) 今後の進め方と化石鑑賞 参加者:11名 琵琶湖博物館 実習室1
日程の関係上次回に報告させていただきます。

【活動予定】 未定



⑧ 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス:ko-tunagu@lbm.go.jp

グループ担当職員:林竜馬

【活動報告】

今年度の前半はリニューアル工事中であったり、夏以降は入館者急増の影響などで、アトリウムでの活動を控えてきましたが、2月3月は、目標の月1回の活動をする事が出来ました。2月の活動日はとても寒い時期だったので「びわこの深呼吸」の話や、3月は少し暖かくなってきて、道端で見つけた「テントウ虫」や「つくし」を使いこどもたちと交流をしました。いつも日本語が通じているのか?と心配になるような小さなこどもたちですが、一生懸命聞いてくれるので、とても楽しく紙芝居ができています。次年度もどんなこどもたちに出会えるか楽しみです。

【活動予定】

■4月23日(日) 13:00 実習室2 集合 紙芝居上演



⑨ ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス:hashi-discov@lbm.go.jp

グループ担当職員:澤邊久美子, 鈴木隆仁, 森智美, 片淵綾香

2016年度は、新しいプログラムを3つも実施できました。1つは、飛ぶタネと紙ヘリコプター作りです。種が飛んで遠くに移動することとその飛ぶための仕組みを調べながら準備しました。身近な植物の技に気づいてもらえたかなと思います。2つ目はコーヒーかすを使った匂いとり作りです。いつもは捨ててしまうコーヒーのカスで、かわいいオーナメントができました。3つ目は、あずま袋作り。いつもはお手玉ですが、今年は一枚の布で袋が作れちゃう昔の人も使っていたかわいい袋を作りました。毎回針仕事は、みんな真剣に取り組んでくれます。障子の張り替えも行い、気持ちよく春を迎えられます。4月からはまたメンバーも増えて、新しい活動に広がると嬉しいです。



2017年12月から、ディスカバリールームはリニューアル工事で閉室になります。
2018年7月に新しくなって戻ってくるよ!
楽しみにしてね☆

【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ イベント	2月12日(日) ①13:00～ ②14:00 ～	あずま袋をつくろう	今年の針仕事はあずま袋作りです。一枚の布を、2か所縫うだけでふくろが完成！みんな自分の袋を嬉しそうに持って帰ってくれました。はしかけ4名、参加者16名
登録講座	3月12日(日)13:30～	はしかけ登録講座	はしかけ登録講座で、グループ紹介をしました。その後、新しいメンバーの方とお話をしました。はしかけ2名



「あずま袋を作ろう」 針で指を刺さないようにね～。イタッ



あずま袋

～メンバーからのメッセージ～Vol.34

はじめまして。今回「ディスカバはしかけ」の仲間に入れていただいた京都の細木京子と申します。1月に久しぶりに琵琶湖博物館へ行き、ディスカバリールームに、にんぎょうげきのコーナーがあることに、初めて気づきました。よくできた人形がずらりと並び、ヨシで葺いた立派な家の舞台が設けられていて、思わず「素晴らしい！ここで人形劇をやって、琵琶湖の環境保全の活動をしてみたい！」と叫んでしまいました。先日の登録日には、メンバーのお二人の方にもお目にかかり、一緒にさせていただけるようで喜んでおります。皆様にはお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(細木)

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
登録講座	5月14日(日)	はしかけ登録講座	グループ紹介をします
はしかけ イベント	5月20日または27日 (未定)	ゲンタのたんじょうものがたり(紙芝居)	ほたるのゲンタのたんじょうものがたりを紙芝居でお話します。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！



⑩ 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: satoyama@lbm.go.jp (登録会員数 39名)

グループ担当職員: 安福俊幸

【活動報告】

■2月25日(土) 草木染め、きのこ菌打ち 都合により中止

■3月5日(日) 総会、きのこ菌打ち 参加者:18名

18名の参加者があり、天候にも恵まれ、午前中、①男性チームによるシイタケ菌打ち、②女子チームによるランチ準備、③子供チームによるマル秘作業に分かれ活動しました。

①は、生活実験工房前広場でチェーンソーによるコナラ原木長さ調整、ドリルによる穴あけ、そして、シイタケ種コマの打ち込みで約20本のシイタケ原木を作成。その後、工房裏の林の中に横伏せで仮置き。②のランチ準備は、女子力を生かした野菜天ぷら、新鮮サラダ、味噌汁の健康メニューの副食づくり。③の子供たちによるマル秘活動は、博物館担当職員、安福さんへの御礼のプレゼントづくり。ランチタイムは、春の温かい日差しの中、工房前にテーブルを持ち出し、まず初めに、今までの安福さんの貢献に対して、子供たちによる花束、アルバム贈呈の感謝セレモニーの後、野菜中心のランチメニューと寺尾カフェによるおいしいコーヒーと侑夏ちゃん手づくりのアップルケーキのフルコースランチになりました。

午後からは、里山の会総会を開催し、活動報告、会計報告、世話人改選の議案をスムーズに決議しました。特に、今春から大学一年になる会員が世話人の一人に決議され、里山の会の若いホープが誕生しました。

(吉井)



【活動予定】

- 4月 9日(日) 里山体験教室(春)下見
- 4月 16日(日) 里山体験教室(春)本番
- 5月 21日(日) 春の大篠原里山遊び



⑪ 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: shoku-kan@lbm.go.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

植物観察の会は、2004年の企画展「植物がうごくとき～のびる・ひろく・ひろがる」の時に、多くのはしかげさんに植物に親しんでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

その都度自由に参加できる気軽な観察会を、会の発足以来長年にわたり開催してまいりましたが、2017年度より少し会の運営方針を変えていくことになりました。

これまで会として名簿を作らずに、観察会ごとに参加者を募ってきましたが、今後はメンバーの名簿を作り、例会を月に1度開きながら、比較的近場をベースしながら自主的に植物について学び、年に2、3回程度で少し遠出しての観察会を開催することになります。

【活動報告】

2017年3月19日(日)に、座学「植物の調べかた～植物図鑑を使いこなそう～」を琵琶湖博物館の実習室1にて開催しました。講師は布谷知夫さん。トウカイザクラ(バラ科)、タンポポと市販のキク(キク科)、スイセン(ヒガンバナ科)、セイヨウアブラナ(アブラナ科)、イネとカラスムギの仲間(イネ科)の植物を使って、図鑑を読み解いていきました。実際の作業としては、花をバラバラにして、がく片・花びら・おしべ・めしべなどの数を数えて、花の造りや分類群ごとの特徴を、図鑑を読みながら勉強しました。小さな花の分解は、なかなかルーペでは難しく、スイセンの花などはカミソリで切ったりしながら、詳しく観察しました。

(報告: 芦谷美奈子)

【活動予定】

基本的には、月の第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になると思います。活動にご興味をお持ちの方は、メールにてご連絡ください。

■5月14日(日)「琵琶湖博物館の周りの植物をみてみよう」琵琶湖博物館実習室1 13:30～その後、博物館周辺の野外観察
いつもみているところですが、みんなで歩くと、おもしろい発見や話が出てくると思います。3月に教わった図鑑の見方や花のつくりを思い出して、自分でやってみたいことを探して歩きます。持ち帰ったものは、実習室で実態顕微鏡を使って調べます。

■6月、7月は未定です。

※この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください。



⑫ たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

たんさいぼうの会第51回総会を、1月22日の10時から草津市まちづくりセンターで開催しました。参加者は12人でした。昨年の8月に琵琶湖環境科学研究センターで行われた「水処理生物基礎講座」や、その延長戦として琵琶湖博物館で(内輪で)行われた「珪藻研究基礎講座」の報告など、前回の総会以降に行った活動の報告がありました。また、次回総会の相談や、次の「たんさいぼうの小さな旅」の打ち合わせも行われました。午後は恒例の新年会。

その後の2か月、会としての活動はありませんでした。何人かの会員が、湧水湿地の珪藻の写真撮影を進めています。会員の富小由紀さんが苦心して同定・計数した水田の珪藻の種組成データを用いて、影の会長が統計解析の学会発表を2つしてきました。他人の禰で相撲を取るとは、このことでしょうか。

3月のはしかけ登録講座で、たんさいぼうの会は新たに3人の新入会員を迎えました。5人くらいで細々と続けられればよいと思って始めたこのグループ、活動会員は少しずつ入れ替わりつつも、このところ常に20人ほどを維持しています。

【活動予定】

たんさいぼうの会第52回総会を、4月2日(日)10時から南郷水産センターで行います。午後は恒例の花見、のはずなのですが、このところの冷え込みで、開花が間に合うかどうか怪しくなってきました。暖かい日が続くことを祈るばかりです。

今年の「たんさいぼうの小さな旅」は、一泊二日で函館山・淡海池と山門湿原に行くことになりました。山門湿原は、たんさいぼうの会としては10年以上ぶりの再訪になります。現在、日程など詳細を検討中です。



⑬ 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: M. J. グライガー, 鈴木隆仁

昨年度の楠岡さんに続き、担当職員のグライガーさんが定年退職されることになりました！大黒柱といえるお二人を続けて失い心もとないグループではありますが、若き後任(鈴木学芸技師)に新風を持ち込んでもらい今後とも奮闘の予定です。田んぼのエビ類に加え、チャンスがあればイタチムシ(鈴木学芸技師の研究対象)の採集、観察も行いたいと思っています。

【活動報告】

■3月12日(日)13:30~16:40 年度末の総会 参加者:17名 博物館実習室1

グライガーさんの退職挨拶があり、田んぼグループと共に行った調査の大まかな報告、成果などを述べられ、論文別刷り等をグループに頂きました。4月以降は台湾の国立海洋大学で教鞭をとられるとのこと、一同さらなるご活躍をお祈りしました。

1. 今シーズン調査結果のまとめ(前田)

- ・昨年以前と比較して、エビ類の大まかな分布はあまり変わっていない。
北湖の湖沿いでは詳細な調査にもかかわらずエビ類は発見できなかった。
- ・今年度調査で新しく見つかったのは
アジアカブトエビの分布が広がっていると考えられる。
守山でエビ類が広がっている。
信楽は洪水によってエビ類の分布が広がった。(山川さん論文)
安曇川町でヒメカイエビ、安曇川北でカイエビ発見。

2. 来年度の体制

- ・担当学芸員の交代 グライガー学芸員 ⇒ 鈴木学芸技師
- ・グループ代表の交代 前田さん ⇒ 山川さん

3. 来年度の調査について

- ・1999年の調査から20年たつ2019年に大掛かりな調査を行うための準備をする。
- ・経年変化を追いかけるため30地点を集中的に調査する。
- ・経時変化は各自が近くの田んぼの定点で調査を行う。(最低でも一週間に一度くらい)

【活動予定】

- 4月8日(土)10:00～ 博物館実習室
調査地点の決定(合同調査及び個人調査)
調査道具の準備
- 5月13日～6月10日の間に2度の合同調査(日時未定)
- 6月11日(日) 瀬田地域調査



⑭ タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbm.go.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

さて、いよいよタンポポシーズンの到来です！皆さん、外に出てタンポポの観察をしましょう！！

<タンポポ調査はしかけ、継続活動中！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続しています。2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つつこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。

タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。
一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

<2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！>

「タンポポ調査・西日本2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

<引き続きメンバー募集中！>

今回の調査(2019年予備調査、2020年本調査)を視野に、活動しております。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかでないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！メーリングリストで情報共有したいと思いますので、登録ご希望の方は、上記のアドレスまで連絡をください。

【活動報告】

特に活動はありませんでした。

【活動予定】

■4月16日(日)

滋賀植物同好会のタンポポ調査が甲賀市で行われるので、そこに合流することになりました。当日は、兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武さんが講師として参加されます。目安のため、下に集合場所と時間を書いておきますが、はしかけで参加を希望される方は、変更などがある場合に、個別の連絡などをしますので、必ず上記メールアドレス、あるいは芦谷まで直接お申込みください。

集合場所：JR草津線、甲賀駅北口の予定 集合時間：10:00(終了は15:00頃の予定)

■5月13日(土) わくわく探検隊「タンポポ調査にでかけよう！」

わくわんで、タンポポをやります！当日は、博物館の屋外展示などでタンポポをさがし、後半はタンポポを使った工作をします。「びわたん」メンバーが進めてくださいますが、タンポポの方でもお手伝いして下さる方を募集します。上記メールアドレス、あるいは、芦谷に直接お申し出ください。

開催場所：琵琶湖博物館 実習室2 開催時間：13:30～15:00(受付は13:00から)



⑮ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: bek@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■1月21日(土) 参加者:1名

琵琶湖博物館前でヨコエビの採集を行いました。冬は北湖湖岸の一部でも見ることのできるアナンデールヨコエビを探してみたのですが博物館前で見つけることは出来ませんでした。

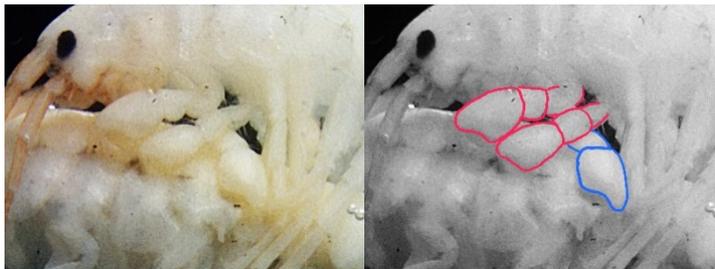
ヨコエビは脱皮直後の殻が柔らかいときしか交尾できないため繁殖期はオスがメスを掴んで一緒に泳ぎメスが脱皮するのを待ちます。こういった行動を交尾前ガードと呼んでいます。

今回交尾前ガードをしているナリタヨコエビをそのまま固定して観察してみたところオスの左右の咬脚が両方ともメスの同じ側を掴んでいました。今まででつきり右脚は右側を左脚は左側を掴んでいると思っていたので意外でした。今後、機会があれば今回の事が偶然なのか、それとも常にそういった掴み方をするのか観察してみたいと思います。



交尾前ガード中のナリタヨコエビ

この写真では左側に脚をかけていないように見える



標本写真(左の写真とは別個体:脚は1本無かった)(赤:左咬脚 青:右咬脚) 左右の脚を交差させている。

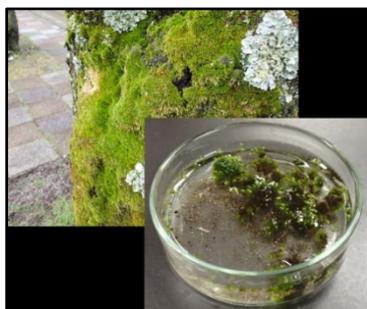
■2月25日(土) 参加者:3名

前回参加していないメンバーが集まったのでもう一度クマムシ探しを行いました。今回も各々近所のコケを持ち寄ったり、博物館前で採集して観察しました。今回は前回と違い多数のクマムシを見つけることができました。

今回は見つけたクマムシをある程度同定してみようとしたのですが爪の観察が難しく「真クマムシ綱」に属することしか分かりませんでした。ただ今回観察した中には爪の形が異なるように見える物がいたので2種類以上はいたかもしれません。



クマムシの仲間



採集したコケを水の入ったシャーレーに入れて観察した



クマムシの脚のツメ
生きている個体だと頻繁に動かすため観察は難しかった

【活動予定】

次の開催日については未定です。琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



⑯ びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 123名】

グループ代表アドレス: biwatan@lbm.go.jp

グループ担当職員: 岡部陽造

2月・3月は「化石のレプリカ」「火起こし」と人気のわくたんメニューが続きました。どちらも定員を越える参加者が受付時刻前から列をつくる状態でした。化石のレプリカの時は実習室2に入れるだけ受け入れ、火起こし体験は、道具数分の家族を受け入れることで対応しました。それでも、お断りしなければならぬ希望者がおられことが心苦しかったです。

【活動報告】

■2月11日(土)「化石のレプリカをつくってみよう」参加者:72名

いつも人気の化石のレプリカづくり。1時間前から化石大好き少年が並んでくれていました。列もだんだん長くなり、受付開始時には定員を大きくオーバーしていました。実習室2に入れるだけ受け入れをし、どうにか始めることができました。

今回はおかちゃん博士の化石のお話でスタート。化石とは何か？滋賀県から出てくる化石は？などの話を実物の化石やレプリカを見てもらいながらおこないました。

化石のレプリカづくりでは、おなじみのアンモナイト・三葉虫・サンカクガイ・ピカリアの4種を家族ごとに作ってもらいました。速乾性の石膏を用いているため、手早く確実に作業を行うことが重要です。どの家族も良い形のレプリカを作りたいためか、熱心に説明を聞いておられました。また、力を合わせ、声を掛け合いながら作業を進めておられるのが印象的でした。

次に、レプリカが乾くまでの時間を使って、A展示室の見学に行きました。いくつかのミッションがあるワークブックを使いながらの見学になりました。びわたんメンバーもたくさんいたため、参加のみなさんとの交流を楽しむひとときとなりました。



最後に、ミッションの答え合わせとできあがったレプリカを型枠から抜く作業をおこないました。慎重に作業をおこない、できあがったレプリカを見て歓声があがっていました。新聞に丁寧に包み、大事そうに持帰る子どもたちの様子がとてもかわいかったです。

びわたん (おかちゃん)

■3月11日(土)「火起こし体験」参加者:51名

2016年度最後のわくわく探検隊は、「まいぎり式火起こし器」を使った火起こし体験でした。私たちの暮らしに欠かせない「火」は、マッチやライター、ガスコンロ等で容易に扱うことができます。しかし、昔の暮らしの中では「火打ち石」や「火起こし器」を使い、時間と労力を要して火を起こしていました。今回の火起こし体験では、「まいぎり式火起こし器」を使って火起こしの大変さを実感してもらいました。滋賀の教師塾の学生11名(ボランティアスタッフ)と10家族の参加で、工房にて実施しました。

受付後に工房へ移動し、下松博士のお話を聞きました。わくたん初登場の下松博士、火の起源や人々の暮らしとの関わりについて、参加者の子どもたちにも分かりやすくお話をして頂きました。次に「まいぎり式火起こし器」の紹介と使い方を聞いてもらいました。なかなかイメージがつきにくい中で学生スタッフによる実演を見てもらうと、子どもたちから「すごい！」という声があがりました。今回は、「火打ち石」による火起こしも特別に見てもらいましたが、火打ち石で出た火花が火口(ほくち)に移って麻布が燃えると歓声と拍手が起こり、参加者みなさんのやる気がどんどん増していきました。家族毎での火起こしが始まると、役割分担しながらみなさん一生懸命に取り組んでいました。

まいぎり式火起こし器の仕組みは、火きり棒(軸)を回転させて火きり板との間で摩擦熱を発生させます。火きり棒を回転させるために紐でつながった横木を上下させると火きり棒が回転し、火きり板が削れて「火だね」を作ります。今回の体験では、「火だね」を作ることに苦戦しました。数家族が火だねから麻ひもをほぐしたものを燃やすことができましたが、火を起こしの仕組みや大変さを体験し、家族で協力することや火の大切さを実感していました。



びわたん (こばやん)

【活動予定】

■4月8日(土)「春の草花でしおりを作ろう！」

■5月13日(土)「タンポポ調査に出かけよう！」

■6月10日(土)「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」

【活動報告】

■1月22日(日) 参加者:3名

猫の骨の洗浄、タヌキの骨の洗浄、標本の整理、
ホネホネサミットのための準備作業を行いました。

■1月28日(土) 参加者:3名

猫の骨の洗浄、タヌキの骨の洗浄、標本の整理
ホネホネサミットのための準備作業を行いました。

■2月5日(日) 参加者:4名

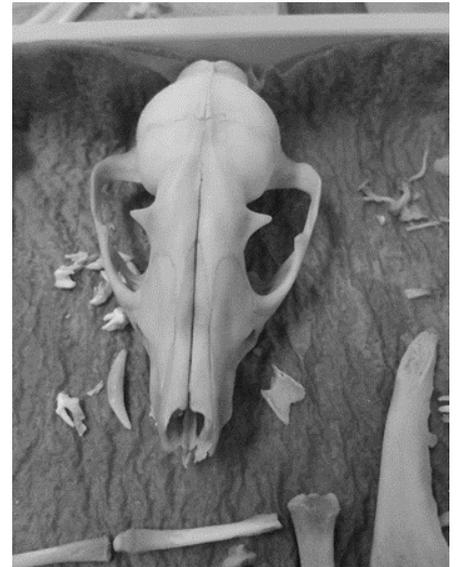
魚(フナ)の解剖、ホネホネサミットのための準備作業を行いました。

フナの解剖をされたメンバーは魚類の解剖は初体験との事、解剖してその形を改めて見てみると、過去に製作した動物たちとの共通点や相違点、その差などに気づきます。

今回製作された魚類もなじみ深い哺乳類とは全然違う形をしているように見えますが、共通する構造や、進化の過程で変化

していった“つながり”が感じられます。

そうすると、生き物の体がいかに精密にできているか、長い時間をかけて変化を繰り返し、その形を変えていくというシステムの“おもしろさ”、その“つながり”の中に“自分”というものもあるのだなど、専門家でも何でもないのでたいへん恐れ多いですが、そんな思いも自然とわいてくるのです。



■2月11日(土・祝)～12日(日)

大阪自然史博物館において開催されたホネホネサミット 2017に参加しました。

ホネホネサミットは全国各地から骨好きが集い、開催されるイベントです。

2日間開催され両日ともに2千人近くの来場者が訪れられました、全国にはいろいろな活動をされているグループがあり、その展示も多種多様、同じ骨といっても切り口、語り口が違うことでこんなにも多彩なものになるのだと驚かされます。

今後のほねほねくらぶの活動の参考になる事ばかりで、色々なことを感じ、考えた二日間となりました。

■2月19日(日) 参加者:2名

アナグマの解剖、標本データの整理、を行いました。

普段の活動はどうしても製作を優先してしまうので、今まで手を付けられずに来たのですが、一念発起して過去からのほねほねくらぶの製作標本のデータを利用しやすいように整理しました。

作業を通して、自分自身が参加していない時期の活動の様子や、今までのほねほねくらぶの歴史の様なものが感じられて来て、地味な作業なのですが、面白く作業できました。

■3月12日(日) 参加者:2名

はしかけ登録講座で活動紹介を行いました。

■3月19日(日) 参加者:4名

アナグマの解剖、標本データの整理を行いました。

【活動予定】

■4月、5月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



【活動報告】

■2月4日(土) 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 17名(うち子供1名)

・七草スコーン作りと廃油石鹸作り

毎年恒例の七草粥と廃油石鹸作りは、午前中作業と2月実施と言うこともあり、ちょっと趣向を凝らしてビニール袋でスコーンをつくることにしてみました。

ビニール袋に材料を入れ、博物館の敷地で探してきた三つ葉や七草の刻んだもの、赤かぶと大根の蜂蜜漬けなど好きなものを入れ、ひとまとめにしたものを上から伸ばしてビニール袋を切り開き、生地を好きな形に切りオープンで焼きました。

七草の緑やかぶの赤など彩りもよく、大根がジャムのような食感になり、とても美味しく出来上がり、メンバーの方も材料に米粉や甘酒を入れたりすることや、大根やかぶの蜂蜜漬けに驚かれ、とても喜んでいただきました。

廃油石鹸は午後からのもぐさで使用するよもぎをいただき、石鹸生地に練り込んでみたりと新しい試みで、出来上がりが楽しみなものになりました。

七草スコーン



廃油石鹸作り



・もぐさ作りとお灸体験

5月の末に採取したよもぎを乾燥させ、「もぐさ」作りを行いました。

もぐさは、よもぎの繊毛からできるお灸の材料です。作り方は「もぐさ鍼灸院」のHPを参考にしました。

担当のメンバー自身も、もぐさが本当に出来るのかなと半信半疑での取り組みでした。

春に刈ったよもぎをゴミなどを取り、きれいに洗って乾かし、たとう紙に入れての保存と書いていましたがブリキ缶をたまたまいただいたもので保存しました。実験は添付書の通り行い、途中順に白くなっていく綿毛や粉を顕微鏡でみたり、予想をしていなかったこともわかりました。

もぐさが出来上がると皆さんお試しをしてみたいとのことで、ヨモギの香りとこころよい気持ちよさを感じられた様子でした。

もぐさ作り



お灸体験



<感想>

- * 作業をしていく中でミキサーにふるうことを繰り返すが意外と歩留まりがいいのがわかりました。
- * ミキサーで繰り返すことで徐々によもぎになっていくことに感動！初めての経験でしたが使用感もよかったです。
- * 鍼灸院でのお灸体験があるだけに今回のもぐさ作りが出来るなんて想像もつかなかったのですが、段々ともぐさになっていくのを見て感動、さらにお灸体験をして癒される時間でした。

■3月12日(日) 年度末総会 琵琶湖博物館 研究棟 2F 研究交流室 参加者:15名

緑のくすり箱の1年間の活動を振り返る年度末総会を開催しました。

この日は、はしかけ登録講座の開催日で、新しく一緒に活動してくれる2名のメンバーも総会に参加して下さいました。今年度を振り返ると、いろいろな活動をした中で、一番良かったなあと思ったことは、難しいかなあ、と思えること、本当に出来るのかなあと思えないことでも、みんなで協力してチャレンジすれば、なんとか形になったこと、失敗しても何か残せるものがあったことです。

来年度の活動についても、積極的な意見が出て、大まかに計画を立てることができました。

みなさん、今年1年、ありがとうございました。

<来年度 活動予定>

活動月	内容	担当
3月	藍の種まき	柳原
4月	よもぎうどん作り	吉野千・吉田
5月	ドクダミチンキ漬け もぐさ用よもぎ刈り取り	堀田・山本・愛須
6~7月	ビワの種と葉を使った自然療法	加藤・大羽・深田・引田
7/8・9	びわ博フェス (藍染?)	全員
9月	植物染め	加藤・吉野千
10~11月	くつきの森散策	草加・山本
12月	葉草ピザ作り 柚子胡椒作り	田井中・吉野ま
1月	七草粥作り 廃油石鹸作り	堀田・山本・久保真
2月	もぐさ作り ミツロウクリーム作り	吉野千・草加・熊谷・吉野ま
3月	年度末総会	全員

※総会に出られなかった方で、来年度に活動したい内容が新たにありましたら、ご連絡下さい。

また計画の中で、一緒に担当して下さい方は、活動内容を吉野までご連絡下さい。

■3月12日(日) わくわく水族展示さんぽ 琵琶湖博物館 水族展示 参加者:12名

緑のくすり箱の年度末総会後に、夏にリニューアルした水族展示を見学しました。

新しくやってきたバイカルアザラシや、琵琶湖八珍の生き物を中心に、皆でワイワイと見てまわりました。

アザラシのマリちゃんとバイくんのふるさとバイカル湖に思いを馳せたり、美味しい琵琶湖の幸でもある琵琶湖の生き物たちをゆっくり観察しました。

カイツブリのえさやりも見ることができました。

水族展示室でも緑のくすり箱のメンバーの好奇心は尽きることがありませんでした

水族展示さんぽ



次回の活動予定		
3/27 (月)	10:00	藍の種まき
4/22 (土)	10:00	よもぎうどん作り
どちらも生活実験工房にて実施します。		



⑱ 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: morihito@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■クズ、キカラスウリ伐採作業 1月28日(土)10:00~12:00 生活実験工房、屋外展示の森、参加者:(会員)2名 (博物館職員)林
内容:クズとキカラスウリの伐採、倒れたツガの添木設置を行いました。

*クズは落葉広葉樹の森と有用植物区(ゲッケイジュの周辺)で5年物を2本と直径、1cm前後のツル20本ほどを伐採しました。薬剤処理はしていません。

*キカラスウリは遷移実験区と太古の森で20本ほどを伐採しました。クズと違い年輪はみられませんでした。キカラスウリの茎は非常にちぎれやすいですがそのうち数か所は根が浅かったようで根元の茎を引っ張ると写真のような肥大した根が取れました。ダリヤの球根に似ています。大きいのは直径10cmほどあり、輪切りにすると大根のようなみずみずしい感じでした。因みに昔、あせもにつけた天花粉はキカラスウリの根のでん粉を精製したものだそうです。



茎(年輪なし)

根の輪切り

■西ノ湖ヨシ調査 2月11(土) 悪天候のため中止。

■動物カメラの確認 2月25日(土) 10:30~12:00 生活実験工房 参加者:(会員)3名

PCソフトの取り扱いに不慣れのため時間がかかり一部の画像しか確認できませんでした。電池の充電後引き続き設置しています。

■西ノ湖ヨシ調査 2月25日(土) 15:00~17:00 B&G 海洋センター 参加者:(会員)1名(博物館職員)林

到着が遅れたため一区画のみの調査に参加しました。ヨシの密度計算とバイオマス量、花粉生産量調査のため3m×3mの方形プロット内のヨシを刈り取り花序の有無でそれぞれの本数と重量(一部は後日、乾燥させる)を計測しました。

■動物カメラの確認、樹冠トレイル関連 3月12日(日)10:00~12:00 生活実験工房 参加者:(会員)4名(博物館職員)林、澤邊

1. 動物カメラの確認: 2016年11月26日からほぼ4か月間にタヌキ(2個体)、キツネ、イタチ、ネズミ、アライグマ、ネコ(3個体)、キジバト、トラツグミ、シロハラ、ハシビロガモ(♀)、トビ、アオジが確認されました。澤邊さんからこれらのデータのまとめ方について幾つかの例示をいただきました。また後日森に落ちていた鳥の巣の材料に使われていた羽の特定をしていただきました。



2. 来年度計画について: 本年度実施した森のガイドツアー、観察会、屋外展示の森の整備などの他に来年度は樹冠トレイル解説版の作成、2018年7月オープン予定の大人のディスカバー植物コーナーの展示物作成、屋外展示の森のガイド本作成などを盛り込むことになりました。

3. 樹冠トレイルルートの現地確認を行いました。

その他: 午後にはしかけ登録講座での森人の概要説明を行いました。

【活動予定】

◎3月25日(土) 10:00~12:00 場所:生活実験工房 内容:森の観察、来年度の活動計画など。

◎4月は8日(土) と22日(土)に活動予定。

★森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか

★参加を希望される方は 森人(もりひと) morihito@lbm.go.jp に連絡ください。



2月のちこあそは、少し早い春を探しに、アトリウム前の広場へ出かけました。フキを探しにです。落ち葉の間に隠れたフキを探して、落ち葉を除けたり、小枝で草をゆすったりするのですが、全然見つからず。バンダナおじさんに聞いても、「今年はお出でないねえ」。残念、ということで赤い葉っぱのスイバを摘んで、バンダナおじさんにジャムにしてもらいました。いつも見慣れている草でジャムなんてできるのかなあとみんな？顔でしたが、あつという間に真っ赤なジャムをバンダナおじさんが作ってくれました。(シュウ酸が多いので、少しずつ食べてねということでした)。そして、朽ちた木を割ってみると、冬眠中の生き物が現れました。モゾモゾ動く虫に、子ども達は興味深々、お家の方は冷や冷や。それでも、カミキリムシの幼虫は、フライパンで焼いて食べました。思いきって食べてみたお母さん「おいしい！うまみがあるよ！」でした。まだ春をなかなか感じられませんが、冬でもなんだかんだと食を楽しみました。

3月のちこあそは、なんと生まれて3か月の0歳から60歳代まで、広い年齢層が集まりました。4月から幼稚園や保育園に行く子どもたちは、朝の挨拶や名前呼びの時の「はいー！」も元気です。そんな子ども達も実は1年前は、田んぼを前にして泣いてお母さんに捕まっていたが、1年間ちこあそで自然の中で遊んだ経験が積み重なって、田んぼも森も、虫も、ガチャコンポンも仲良しになりました。今回は、澤邊学芸員と一緒に森へ。歩いているとパンチャ、カメラが光ります。森に仕掛けられたカメラは、森の野生動物を撮影する自動シャッター付きのカメラ。タヌキやイタチ、アライグマなどが写っていました。昼間は見つからない動物が夜は、森で遊んでいることに、子どもたちとお家の方はビックリ。森の豊かさに気づいた活動でした。WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
2月	2月15日(水) 10:00-14:00	寒さを吹き飛ばして、博物館の森で遊ぼう ちこあそ2月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー1人、幼児12人、保護者10人、学生1名、はしかけ参加1人
3月	3月15日(木) 10:00-14:00	春ですよ～ 博物館の森で、春の自然で楽しもう！ ちこあそ3月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー2人、幼児10人、保護者9人、学生1名、はしかけ参加1人

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
4月	4月19日(水) 10:00-14:00	春をいっぱい体で感じよう ちこあそ4月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

2月の様子



バンダナおじさんが、水路にいたザリガニを見せてくれました。ちょっとおっかなびっくりな2人です。



朽ちた木を割ってみました。カミキリムシの幼虫が見つかり、フライパンで焼いて食べました。美味しかったですよ。

3月の様子



澤邊学芸員が自動シャッター付きカメラに映っていた
タヌキやアライグマ、イタチ、キツネを紹介してくれました。



バンダナおじさんが、今日の美味しい食べ物を紹介
してくれました。みんなの顔が笑顔になる朝の時間です。

⑳ 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: junrei-rekishi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 橋本道範, 渡部圭一

【活動報告】

■3月12日 はしかけ登録講座

新グループ「近江 巡礼の歴史勉強会」の紹介を行いました。現在の会員数は二名で今回のはしかけ登録者の中から一名の新規参加希望者がありました。

このグループの目的は、①近江の社寺巡礼について、その歴史的背景や現状を視野に入れ調べる ②社寺関係者、郷土史家、教育関係者、行政関係者など各種専門分野と勉強会、地域見学会などを行うことです。今後、これらの視点で、近江の巡礼の歴史に触れていく予定です。

【活動予定】

四月以降に下記の活動を始める予定です。ご興味のある方は junrei-rekishi@lbm.go.jp を通してお尋ねください。

- ①「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した活動を主とし、一ヵ寺ごとに訪問し、現状を聞き取り調査する。
- ② 調査済み寺院を地図上にマッピングし分布図を作成する。
- ③ 巡礼に関する専門家との意見交換や勉強会を開催する。



㉒ 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: mushikake@lbm.go.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

3月12日に、はしかけの新しいグループ「虫架け」が発足しました。

代表: 梶田聡子 グループ担当職員: 八尋克郎

昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしています。また、目標実現のために、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えています。

今後、参加を希望される方はメールで代表アドレス（mushikake@lbm.go.jp）までお問い合わせ下さい。

生活実験工房からのお知らせ

担当職員：下松孝秀

※春の訪れとともに、生活実験工房の田んぼ体験行事がはじまります。稲作づくり体験では、5月～10月までの活動日が決まりましたので、お知らせします。フィールドレポーターやはしかけの方の参加をお待ちしています。時間を見つけて、体験活動へのご参加をよろしくお願いいたします。

【活動予定】 開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

- 5月14日(日) 田植え
- 7月23日(日) 昆虫採集
- 9月10日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月8日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

※一般参加者の受付は、9:30からです。
各自、長靴、着替え等をご用意ください。

4. 新規グループ誕生のお知らせ

2月、3月と続けて、ふたつの新規グループが誕生しました。ご興味のある方は、グループ紹介文を参考にさせていただいて、ぜひ参加ください。また、参加を希望される方はメールで各代表アドレスへ問い合わせください。

- 「近江 巡礼の歴史勉強会」 グループ担当職員：橋本道範、渡部圭一
グループ代表アドレス：junrei-rekishi@lbn.go.jp
- 「虫架け」 グループ担当職員：八尋克郎
グループ代表アドレス：mushikake@lbn.go.jp

5. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの hashi-adm@lbn.go.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) 活動中に事故が起きたら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成29年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。